
パンダヒーロー

リビディア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パンダヒーロー

【Nコード】

N3853Z

【作者名】

リビディア

【あらすじ】

ある姉妹、グレスとミリアは日本にやってきた。

グレスは野球の助っ人を職業に。

ミリアは麻薬密売人を職業に。

そんな二人は、今日も大金を巻き上げる。

恐れられるヒーロー

ベンチでのんびりすごしていた平日月曜日。ネットで「月曜日しね」などと書き込まれる日。あたいはいつものように頼まれた。

「お願いします、グレスさん！」

餓鬼みてえなだっせえ財布から出されたのは諭吉だった。その枚数、4枚。

こんなんであたいが動くかつての。餓鬼はほんとちっせえ。そんなんだからイチモツもちっせえんだよ。

「足りないねえ」

「そ、そんな……」

「ちっぽけな金で動くほどあたいはお人よしじゃないのさ。これは仕事なんだよ。分かるかい？ 僕ちゃん」

愛棒の金属バッドを餓鬼三人に向けた。諭吉を出した餓鬼はビビって汗だの涙だの流し始めた。

情けねえ餓鬼だ。一からやりなおせてんだ。

「あ、あの…どうしたら助っ人として動いてくれますか？」

「そうだな。全員が全財産出したら考えてやる」

そう言くと餓鬼は目ン玉が飛び出そうなほど目を開いて、声を合わせて「全財産！？」と叫んだ。

真昼間からうるさいったらありやしねえ。

「そこをなんとか…」

「なんとかできねえ。いいか？——、餓鬼がごちゃごちゃうるせーんだよ。出さないんならしねえよ」

すると、右側にいた餓鬼がポケットから大急ぎで金を取り出しあたいに寄越した。口角を上げて笑うと、他の二人もさっさと出した。なんだいい餓鬼じゃねえか。

「場所はどこだ、教えろ」

金属バッドを抱えて立ち上がる。餓鬼はうれし泣きしてありがとう

ございますを連呼した。慣れてるものの気持ち悪い。
案内されたそこは、ある中学校のグラウンドだった。

恐れられるヒーロー（後書き）

自分なりにパンダヒーローを考えてみました。どうぞ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3853z/>

パンダヒーロー

2011年12月13日00時58分発行